

登録コード	J6801300	開講年度	2026				
授業科目	発展演習				担当教員		
英文授業名	Advanced Law Seminars				副担当		
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限			
講義室			授業区分	演習	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	経法23初（2026改）・総合法律，経法23初・総合法律，経法20初・総合法律						
	法学の専門領域の基礎能力として，リーガルマインドを備え，現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。				⇔	リーガルマインドを備え，現代社会の諸問題を解決していくうえで必要な法学・政治学に関する概念や理論を正確に理解し，発展的な議論ができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本演習は、各回の担当者による報告と質疑応答を中心に進めることを予定している。ただし、報告のテーマ、形式などは担当教員によって異なるため、詳細は開講後に指示する。						
(5)授業計画	それぞれの学期の初回に履修上の注意などを確認したうえで、残りの回は、テーマ報告、判例報告、事例問題の検討などにあてる予定である。報告のテーマは、担当教員の専門分野と受講生の希望を踏まえたうえで、法学や政治学の発展的な問題から選択される。 最後の回に授業アンケートを行う。						
(6)成績評価の方法	成績評価は、報告内容や議論への参加状況、演習論文など教員が指定した成果物を総合的に考慮して行う。 配点は初回授業で連絡する。						
(7)成績評価の基準	各回のテーマに関する文献を広く収集し、その内容を正確にまとめることができるだけでなく、（a）調査範囲が相当広く、（b）非常に発展的な内容が報告などの中で言及され、かつ（c）報告などの方法が聞き手にわかりやすくなるように工夫されていれば、「卓越している」。（a）～（c）の項目のうち、2項目が満たされていれば、「かなり上にある」、1項目だけ満たされていれば、「やや上にある」。その他の場合は、「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	基本的に、すべての受講生に対して、各回のテーマについてある程度の予習を行うことを求める。予習の方法などについては、開講後に指示する。						
(9)履修上の注意	関係する科目をすでに履修していることが望ましい。もっとも、そうした科目を履修していないからといって、本演習への参加を拒むことはない。 また、原則として、欠席は認めない。やむを得ない事情がある場合には、必ず事前に連絡すること。 ※卒業論文の指導教員が演習担当者ではない学生で、本演習の履修を希望する者は、必ず、事前にメールでその旨を連絡すること。						
(10)質問,相談への対応	演習中に随時受け付ける。また、必要があれば、メールなどでも対応する。						
【教科書】	開講後に指示する。						
【参考書】	開講後に指示する。						